

令和5年度 文部科学省委託  
学校安全総合支援事業

# 「地域連携安全・安心推進事業」

— 実践事例集 —



モデル校：能代市立浅内小学校  
能代市立能代南中学校

秋田県教育委員会

## はじめに

令和5年は、日本海中部地震から40年、関東大震災から100年という、災害安全の視点では大きな節目を迎えました。保護者や、教職員の多くは県内に甚大な被害をもたらした日本海中部地震を経験していない年代となり、児童生徒も東日本大震災の記憶が無い世代へと変化していく中、令和6年1月には能登半島地震が発生し、津波や家屋の倒壊など様々な災害の状況を目の当たりにすることになりました。本県としても、今後発生が懸念されている大規模災害に備え、災害の教訓を未来へ生かすことの必要性を感じています。

昨今では、従来の想定を超える自然災害や記録的な猛暑などが全国各地で毎年のように発生しており、県内においても、令和5年7月に発生した豪雨により、7市町村に「緊急安全確保」が発令され、浸水被害を受けた学校も見られました。また、自然災害だけではなく、登下校中の事件・事故、熱中症や鳥獣対策など現代的課題への対応も求められており、児童生徒等の安全確保が学校だけでは完結できないことを改めて実感することが多くなってきています。

このような状況に対応すべく、推進地域とモデル校を定めて、学校安全の3領域において、学校・家庭・地域が連携しながら学校安全を推進していくことを目的とした「地域連携安全・安心推進事業」を立ち上げてから7年目を迎えました。

今年度は、能代市立浅内小学校・能代南中学校をモデル校とし、地域住民や関係機関等と連携を図りながら、様々な事案に対応した効果的な取組を実践していただきました。

県教育委員会といたしましても、今後、その成果を様々な機会を通じて全県に波及させるとともに、児童生徒等がいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な社会を実現させるための知恵と行動力を身に付けることができるよう、学校安全に関する取組の更なる強化・充実に取り組んでまいります。

最後になりましたが、1年間児童生徒と共に活動していただいた両校の中核教員をはじめ教職員の皆様、活動をご支援くださいましたPTAや地域の関係機関の皆様、能代市教育委員会の皆様に対し心から感謝申し上げます。

令和6年2月

秋田県教育庁保健体育課  
課長 田口 康

# 目次

はじめに

I	事業の背景	1
II	推進委員会の開催	2
III	実践委員会の開催	4
IV	モデル校の取組	
	浅内小学校	5
	能代南中学校	11
	小中連携	16
	情報発信	17
V	中核教員の資質向上	19
VI	中核教員による情報発信	22
VII	実践報告	
	浅内小学校	23
	能代南中学校	28

# 「地域連携安全・安心推進事業」

**池田小学校**  
 学校に侵入した不審者により、児童8名が包丁で刺され死亡、教員を含め15名が負傷。



**大川小学校**  
 東日本大震災により74名の児童と10名の教職員が津波により死亡・行方不明。

学校の校門が開いていた。  
 教員の一人が学校に侵入した犯人とすれ違っていたが、声掛けをしなかった。

教職員の避難の判断において地域住民も関与していたとの報告もある。  
 また、地域住民等も232名中、181名が死亡。

大阪教育大学教育学部附属池田小学校事件 負傷者合意書 前文 (抜粋)  
 学校は、子どもたちが保護者から離れて学習する場であり、本来最も安全な場でなければならない。～  
 また、附属学校を**設置管理する**文部科学省及び大阪教育大学では、各**附属学校の安全措置の状況を把握**したり、～**財政措置を講じたり**していなかった。  
 事件当日においても、不審者に対して**教職員の十分な対応**がなされていなかった。

事故検証報告書 提言 (抜粋)  
 提言2 教職員に対する防災・危機管理研修の充実  
 文部科学省及び都道府県・市町村教育委員会は、**各学校の防災意識や危機管理意識を高め、具体的に子どもたちを被災から守る実質的な研修を実施**すること。～  
 提言8  
 各学校は、**保護者や地域組織と積極的に協議**する機会を持ち、学校における防災・危機管理対策に関する**具体的な連携**を図ること。

研修の重要性

地域連携の重要性

学校安全指導者養成研修や先進的取組を行っている学校への視察派遣

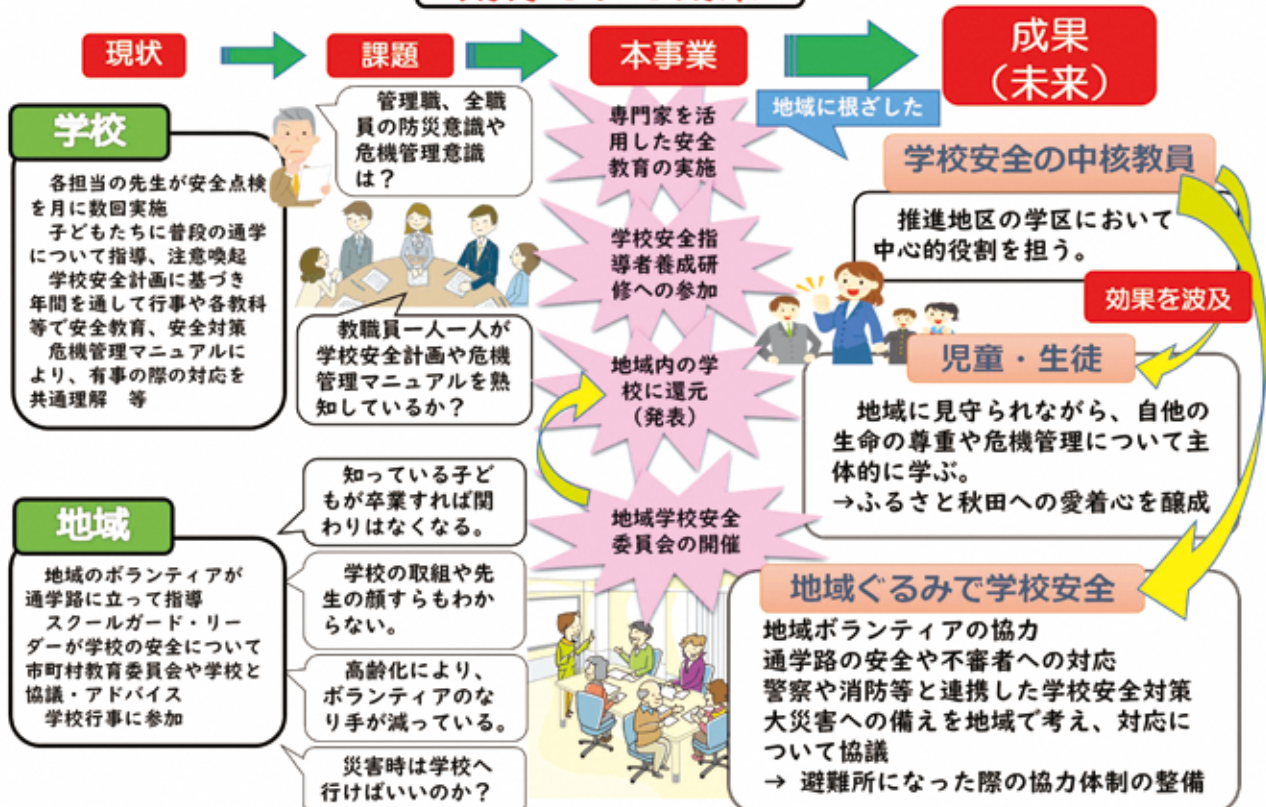
事業立ち上げ

地域学校安全委員会

秋田県教育委員会

# 「地域連携安全・安心推進事業」

## 期待される効果



## 推進委員会の開催

### 第1回推進委員会

- 日 時 令和5年6月5日(月) 午後1時30分から3時まで
- 場 所 秋田県庁第二庁舎 81会議室

#### 令和5年度 地域連携安全・安心推進委員

	所 属 及 び 役 職	氏 名
委員長	秋田大学地域防災減災総合研究センター 教授	水田 敏彦
委 員	防災士	竹内 亜希
委 員	能代市教育委員会学校教育課 指導主事	大山 祐子
委 員	県総務部総合防災課 副主幹(兼)サブリーダー	高村 悟
委 員	県教育庁義務教育課 指導主事	佐藤 央章
委 員	県教育庁生涯学習課 社会教育主事	佐藤 賢輝
委 員	県教育庁北教育事務所鹿角出張所 指導主事	阿部 大地
委 員	県教育庁保健体育課 課長	田口 康

県教育委員会は、推進地域において、学校、地域、関係機関等と連携・協働しながら、事業が円滑に実施できるよう、推進地域を所管する能代市教育委員会、県総務部総合防災課及び学識経験者等を委員とする推進委員会を開催した。

今年度は能代市の南地区を推進地域として、浅内小学校と能代南中学校をモデル校に本事業を実施することを確認した。能代市からは、事業の推進における取組の方針や地域の実情に応じたモデル校の実践内容について説明があった。

また、学校安全教育プログラムと地域連携について、どのような関係機関等と連携していくかを説明し、各委員から関連する事業の紹介や取組について御意見をいただいた。

#### 第1回推進委員会の様子



## 第2回推進委員会

- 日 時 令和6年2月6日(火) 午後1時30分から3時まで
- 場 所 秋田地方総合庁舎6階 602会議室

今年度の取組について事務局から事業報告をするとともに、能代市からはモデル校での成果や課題、実践委員会での意見を踏まえて今年度の事業について成果と課題の報告があった。また、各委員から事業への御意見をいただき次年度の取組に向けた参考とした。

### 【成 果】

- ・ 児童生徒、教職員、地域住民の防災意識の向上
- ・ 学校運営協議会の機能を活用した地域連携の推進
- ・ 中核教員の資質向上

### 【課 題】

- ・ 継続的に安全教育に取り組む環境づくり
- ・ 構築した地域との関係を情報発信や連絡を取りながら深める

### 【総 括】

今年度、実践された能代市では、地域の実情に応じ様々な実践を通して大きな成果が得られた取組となった。

今後も様々な災害が発生することが十分に考えられる。学校管理下においては、平時に災害があった場合は難しい判断が迫られるので、対策を万全にしてもらいたい。今後、災害リスクが高くなり防災教育が重要になる。今回の実践事例集を多くの人が自分事として見ていただき活用してほしい。

第2回推進委員会の様子



## 実践委員会の開催

令和5年7月3日(月)

### 第1回実践委員会

学校運営協議会委員、能代市防災危機管理室室長、能代警察署警備課長に、浅内小学校と能代南中学校が計画している学校安全に関わる取組について説明するとともに、地域の実情を確認し、各委員が専門的な立場からの視点を交えながら意見交換を行った。

令和5年11月24日(金)

### 第2回実践委員会

中核教員が自校の取組として体験的な活動や専門家の活用について報告するとともに、参加した委員から今までの実践内容と今後の取組について御意見をいただいた。

令和6年2月2日(金)

### 第3回実践委員会

中核教員が今年度の取組について振り返るとともに、参加した委員から実践内容と来年度の取組について御意見をいただいた。

会議の様子



## モデル校の取組 一能代市立浅内小学校一

### ◆交通安全

令和5年4月13日(木)

### バス利用安全教室(1・2年生)

子どもの視点を踏まえた危険箇所の確認や乗車ルール等を学んだ。

秋北バス株式会社と連携した乗降練習



令和5年4月28日(金)

### 交通安全教室

- ・通学路の安全確認(1・2年生)
- ・自転車の乗車ルールの確認(3～6年生)

警察署員と通学路の安全点検



自転車の乗車ルールの確認





## ◆生活安全

令和5年7月10日(月)

### 救急救命講習(5・6年生)

能代消防署の協力を得て、一次救命措置について学習し、心肺蘇生法やAEDの使い方など体験活動を通して救急救命に対する意識を高めた。

胸骨圧迫を体験する児童

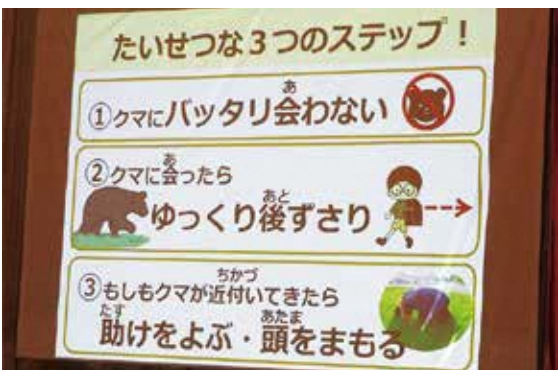


令和5年7月12日(水)

### クマ対策講座

秋田県庁出前講座を活用し自然保護課ツキノワグマ被害対策支援センター 専門員近藤 麻実 氏を招き「野生動物の生態と対策について」と題してクマの生態系や対応の仕方について学んだ。

身を守る行動を体験する児童



## 令和5年7月18日(火) 水上安全講習

日本赤十字社の協力を得て、緊急災害時や衣服を着たままで水の中に落ちた場合の対処法を学んだ。

着衣水泳を体験する児童



## 令和5年8月29日(火) 不審者対応訓練

能代警察署の協力を得て、不審者が侵入した際の対処方法と避難の方法について学んだ。

児童に向けた能代警察署員による  
不審者対応の講話



教職員の不審者への対応訓練



## ◆ 災害安全

令和5年5月25日(木)

### 防災教室(4～6年生)

慶應義塾大学 准教授 大木 聖子 氏を招いて地震発生時の安全確保の方法について学んだ。

写真を見て教室の危険探し



ダンゴムシのポーズ(身を守る姿勢)を確認



令和5年5月25日(木)

### 職員防災研修会

防災研修会を開催し「けが人封筒訓練」を通して、災害発生時のけが人の状況に合わせた対応について確認した。

大木氏の講演



教職員の訓練の様子



グループで振り返り



各グループでの振り返りを共有



令和5年5月26日(金)

## 避難訓練(地震・津波想定)

大地震により大津波が発生した場合の避難経路と避難場所を確認した。

高台への徒歩避難を体験



令和5年10月17日(火)

## 避難訓練(竜巻想定)

## 引渡し訓練(能代南中学校と合同開催)

地域の災害リスクである竜巻が発生した場合の対応訓練を行った。その後、全校児童生徒を対象とした引渡し訓練を能代南中学校と合同で行った。

自分の身を守る行動の確認



児童の引渡しと手順の確認



令和5年11月2日(木)

## 避難訓練(地震：緊急地震速報対応・火災想定)

予告無しで緊急地震速報への対応訓練を実施し、自分の命は自分で守る行動を学んだ。

余震の発生にも対応した安全確保と体育館への避難



防火防煙シャッターの通り抜け方法を確認



令和6年1月16日(火)

## 避難訓練(地震・ガス漏れ想定・冬期間の避難) けが人封筒訓練

地震により校舎内でガス漏れが発生したことを想定し、冬期間の屋外への避難方法やけが人への対応について確認した。

けが人が発生した場合の対応の確認



職員室で情報の集約



## モデル校の取組 一能代市立能代南中学校一

### ◆交通安全

令和5年4月11日(火)

### 交通安全教室

能代警察署の協力を得て、自転車乗車中の危険箇所の確認や運転手から見た死角について学んだ。

警察署員による講話



### ◆生活安全

令和5年7月18日(火) 2年生

19日(水) 3年生

### 救急救命教室

能代消防署の協力を得て、生命を守るために取るべき行動を学んだ。

胸骨圧迫の方法とAEDの操作方法を体験



## ◆ 災害安全

令和5年5月8日(月)

### 防災を学ぶ(2年生)

防災学習館でシミュレーション装置を活用し、地震・煙・初期消火など、防災に関する知識・技術・行動力を高める体験を行った。

初期消火を体験



「東日本大震災」から学ぶ



令和5年5月26日(金)

### 防災講話

秋田大学地域防災減災総合研究センター教授 水田 敏彦 氏を招いて、地震のメカニズムや地域における地震の歴史を知り災害対策について学んだ。

水田氏の講演



地震のメカニズム



令和5年5月26日(金)

## 避難訓練(地震・津波・火災想定)

地震・津波・火災の発生を想定し、それぞれの災害に応じた避難経路や避難の際の注意点を確認した。

地震発生で身を守る様子



地震発生による屋外避難



津波警報による垂直避難



火災発生による屋外避難





令和5年10月5日(木)

## 避難所運営訓練(2年生)

### ○避難所運営訓練とは？

災害発生時に避難してくる避難者を受け入れながら、避難所で起こる様々な出来事を模擬体験する訓練です。

避難者の状況や要望が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図に配置しながら進めます。

防災士 竹内 亜希 氏を招き、「みんなが主役！避難所運営訓練～市民を救え～」と題した災害時の避難所対応について、講演とワークショップを体験した。

避難者の情報や要望が記載されたカードを基に協議



竹内氏の講演



グループでの話し合い



気付いた内容を発表



## 令和5年10月17日(火) 避難所開設訓練

避難所開設における初動対応と引渡し訓練を行うことにより、様々な役割について考えたり、行動したりすることができた。

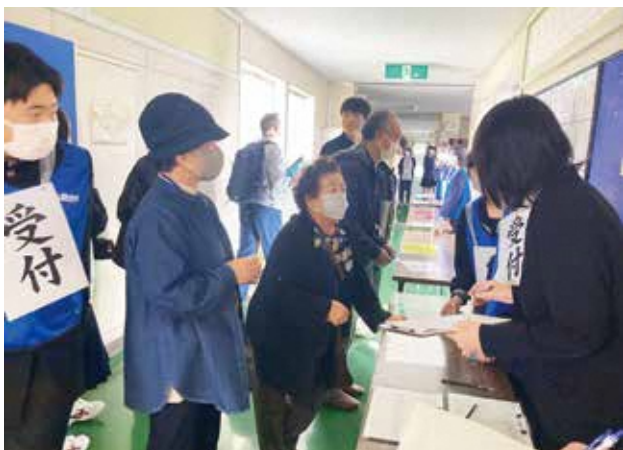
避難所の開設、備蓄食料等の運搬



機材の設置方法・使用方法の確認



受付方法の確認



救護係の対応方法の確認



訓練の振り返りを共有



地域防災委員会を開催し訓練を通じての意見交換



## モデル校の取組 一小中連携一

令和6年1月18日(木)

### 逃げ地図づくり

#### ○逃げ地図とは？

避難場所までの避難経路と、避難にかかる時間を示すものです。高齢者が10%の勾配の坂道を上る速さ（分速43m）で移動する距離を、3分ごとに色を分けて表し、設定した避難場所にたどり着く時間を記します。どこを通れば避難場所に最短時間でたどり着くか一目で分かるものです。

防災士 竹内 亜希 氏を招き、浅内小学校、能代南中学校合同での逃げ地図づくりを体験した。

竹内氏の講演



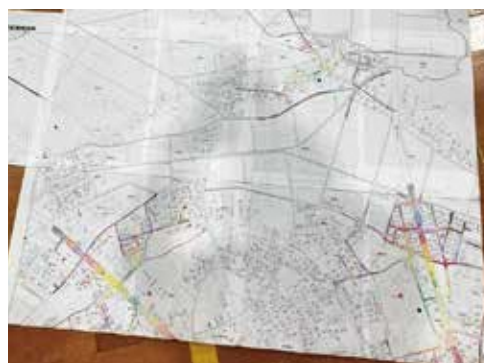
児童生徒が協力して逃げ地図づくりを体験



感想の発表



作成した逃げ地図



◆ 浅内小学校

令和5年10月29日(日)

学習発表会(防災コーナーの設置)

能代市防災危機管理室と連携して防災コーナーを設置し、備蓄済みの賞味期限がせまった非常食の配布を行った。保護者や地域の方からは「災害時の備えについて考えるきっかけとなった」「災害や避難所の生活について家族で話し合う機会となった」という感想が寄せられた。

備蓄していた非常食の配布



避難所のパーティションや段ボールベッドの設置



## ◆ 能代南中学校

令和5年10月12日(木)

### 能代市少年防犯弁論大会

家庭や地域、学校生活などの体験から考えた防犯や非行防止について発表した。浅内小学校の6年生も参観した。

各校代表者による発表



令和5年11月20日(月)

### 未来を創る能代っ子ふるさと会議

今年度学習した防災教育の内容を発表し、安心して暮らせる街にするための提言を行った。

能代南中学校の発表



能代市への提言

小学生の代表として質問する浅内小学校の生徒



## 中核教員の資質向上

最新の情報を踏まえながら、実践的な研修を積み、学校における安全教育の充実を図った。

### 1. 令和5年度学校安全指導者養成研修（オンライン）

- ◇期 日：令和5年7月5日(水) から令和5年7月7日(金)
- ◇主 催：独立行政法人教職員支援機構
- ◇共 催：文部科学省

学校安全の3領域に関して必要な知識を習得するとともに、研修会等において、具体的な実践例を紹介しながら指導助言等を行うことができる中核教員としての資質・能力を高めた。

### 2. 令和5年度災害安全指導者研修会

- ◇期 日：令和5年9月8日(金)
- ◇主 催：文部科学省・秋田県教育委員会

災害安全の研修を通して実践的な防災訓練の在り方や防災気象情報の入手とその活用について学んだ。また、にかほ市で実践した地域連携安全・安心推進事業の実践事例を聴き、今後の防災教育の取組に生かすことができる情報を得ることができた。グループ協議では、「防災訓練の課題・解決策、危機管理マニュアルの見直し」について協議した。

慶應義塾大学 大木 聖子 氏の講演



秋田地方気象台 中村 修二 氏の講演



にかほ市教育委員会  
大須賀 修 氏の実践発表



グループ協議の様子

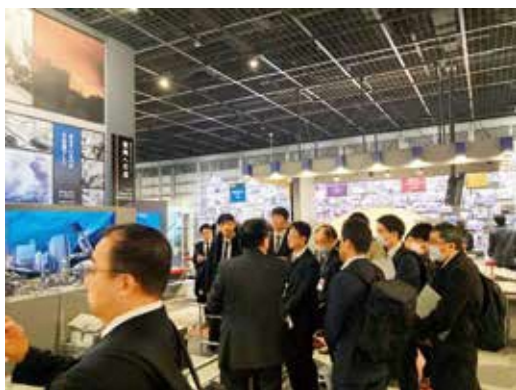


### 3. 令和5年度学校安全指導者研修会

- ◇期 日：令和5年12月14日(木)～15日(金)
- ◇会 場：阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」  
兵庫県中央労働センター
- ◇主 催：文部科学省

阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」を見学すると同時に、兵庫県の震災・学校支援チーム「EARTH」の方と活動内容や災害対応について意見交換した。また、実践的な教職員研修の方法や、事件の教訓を生かした取組について協議や演習を行うとともに、各県 担当者との意見交換を通じ、今後の研修会等において、具体的な実践例を紹介しながら指導助言等を行うことができる中核教員としての資質・能力を高めた。

研修の様子



### 4. 令和5年度学校防災教育研究会

- ◇期 日：令和6年1月23日(火)
- ◇会 場：能代市立浅内小学校
- ◇主 催：能代市教育委員会

『「生きる力」をはぐくむ防災教育の充実に向けて』と題して 文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官 木下 史子 氏より講演していただいた。

文部科学省 安全教育調査官 木下 史子 氏の講演



## 5. 令和5年度全国成果発表会（オンライン）

- ◇期 日：令和6年2月8日(木)
- ◇主 催：文部科学省

発表会では、神奈川県、大阪府、大分県による実践発表のほか、基調講演「セーフティプロモーションスクール活動を通じた学校安全の推進」などが行われた。

令和5年度 学校安全総合支援事業全国成果発表会

### セーフティプロモーションスクール活動を通じた学校安全の推進

大阪教育大学 教授  
学校安全推進センター長  
学長補佐(学校安全担当)  
日本セーフティプロモーションスクール協議会理事長  
藤 田 大 輔



令和5年度学校安全総合支援事業  
全国成果発表会 講演資料より

## 6. 全国学校安全教育研究大会

- ◇期 日：令和6年2月9日(金)
- ◇主 催：全国学校安全教育研究会・東京都学校安全教育研究会
- ◇後 援：文部科学省 他

学校安全に関する講演や、安全指導に関する公開授業等を参観し実効的な取組事例を学ぶことができた。

基調講演



社会で災害について学ぶ



理科の授業における液状化の実験





## 中核教員による情報発信

令和6年1月23日(火)

### 学校防災教育研修会

独立行政法人教職員支援機構主催の学校安全指導者養成研修に参加した中核教員が、研修内容やモデル校での取組について推進地域内の学校に情報発信した。

浅内小学校 嶋田 康弘 氏  
による実践発表



能代南中学校 小山恵理子 氏  
による実践発表



実践発表に対する質疑応答



グループに分かれて、地域との連携・協働による  
学校安全の充実に向けた意見交換や情報共有



# 地域連携安全・安心事業 防災教育実践報告

能代市立浅内小学校 教諭 嶋田康弘

1

## 実践事項

- バス利用安全教室 1・2年生 4月
- 交通安全教室 1・2年生 3～6年生 4月
- 防災教室 4～6年生 5月
- 救急救命講習 5・6年生 7月
- クマ対策講習 全校 7月
- 水上安全講習 全校 7月
- 引渡し訓練(能南中と合同実施) 全校 10月

2

## 実践事項

- 防災コーナー設置、非常食配付(学習発表会にて)  
全校・保護者・地域の方々 10月
- 避難訓練 1回目 地震・津波 5月
- 2回目 不審者対応 8月
- 3回目 緊急地震速報・火災 11月
- 4回目 地震・ガス漏れ・外へ避難 1月
- 逃げ地図づくり(能南中と合同実施) 1月
- 実践委員会 7月 11月 1月

3

## バス利用安全教室(1・2年生) 4月



子どもの視点を踏まえた安全対策の推進

4

## 交通安全教室(全校) 4月



通学路の安全確認



乗り方のルール

5

## 防災教室(4~6年生) 5月



地震がおきたらどうするか  
大木先生から学びました



6

体育館ではバスケット  
のゴールや照明が落ち  
てこない中央に集まり  
ます。



頭をかかえて「ダン  
ゴムシ」のポーズを  
とって、ゆかにふせ  
ます。



7

## 職員防災研修会 5月



子ども達を守るために！

8

## 救急救命講習(5・6年生) 7月



能代消防署との連携



心臓マッサージ  
AEDの使用法

9

## クマ対策講習(全校) 7月



万が一のクマとの遭遇に備えて

10

クマも人間に出会ってびっくりしているんだということの方が分かります。鈴で知らせることも大事です。



もしもクマに出会ったら、背中を見せず、ゆっくりと後ずさりすることが大切です。



11

## 水上安全講習(全校) 7月



日本赤十字社との連携 着衣泳

12

## 引渡し訓練(全校) 10月



地域の災害リスクに備えた、  
小中合同引渡し訓練

13

## 防災コーナー設置・非常食配付 10月



地域をあげて防災意識を高める

14

## 保護者の感想から

防災備蓄品を配付してもらったことで、普段あまり気にしていなかった「家庭での防災備蓄品」について考えるよききっかけとなりました。



15

## 避難訓練(全校) 5月・8月・11月・1月



高台への徒歩避難 5月

不審者対応訓練 8月

16

## 避難訓練(全校) 5月・8月・11月・1月



緊急地震速報訓練 11月

けが人封筒訓練 1月

17

## 逃げ地図づくり(5・6年生) 1月



防災士 竹内 亜希さん  
「自分たちが住む地域の現状を共有」

18

## 逃げ地図づくり(5・6年生) 1月



避難場所が遠い



高台がない!



川の氾濫は?

「自分の命は自分で守る」

19

## 成果と課題

- 子どもたちの防災意識の高まり
- 受け身になりがちな「防災」への興味や意欲の高まり
- 地域住民・保護者との課題意識の共有
- 関係機関や専門家との連携の強化
- 避難訓練等の工夫改善

△効果的な運用のための危機管理マニュアルの見直し  
△今後も継続した活動にするために

20

# 地域連携安全・安心事業 防災教育実践報告

能代市立能代南中学校 教諭 小山 恵理子

1

## 実践事項

- 交通安全教室・防災講話の実施 5月
- 救命講習会の実施 7月
- 避難所運営訓練 10月
- 避難訓練1回目 地震、津波、火災想定(経路確認) 5月
- 2回目 避難所開設訓練 10月
- 3回目 シェイクアウト訓練※緊急地震速報訓練参加  
不審者対応確認 11月
- 宿泊研修で防災館を訪問(2年生)
- ふささと会議で発表 (2年生)
- 逃げ地図づくり(1年生、浅内小5・6年生)
- 実践委員会 7月、11月、2月

2

## 防災講話



水田敏彦氏(秋田大学地域防災減災総合研究センター教授)による  
能代の地震の歴史、今後の備えについての講話

3

## 避難訓練 (地震・津波・火災想定)



1年生が机の下にかくれている様子



校庭への1次避難(地震)

4

## 避難訓練（地震・津波・火災想定）



校舎4階への2次避難（津波）



校庭への3次避難（火災）

5

## 2年 宿泊研修（防災館にて）



「東日本大震災」から学ぶ



「初期消火」体験

6

## 救命講習会



能代消防署の方による救命講習会：救命入門コース

7



一次救命措置について説明



班に分かれて実践練習をしている様子

8



## 避難所運営訓練

○防災についての講演・避難所運営訓練



竹内氏の講演



避難所運営訓練の説明

9

## 避難所運営訓練：能代南中バージョン

### 日本海沖M9.0の地震 巨大津波が発生

冬の金曜日、午後4時 午後から雨 現在気温7°C→夜0°C

停電  
断水

駐車場に  
100人以上

駐車場  
混雑

雨が強い  
気温低下

老人 乳幼児 妊婦 外国人 車いす

ゴール：南中生・約150人の避難者を受け入れる

10

## 避難所運営訓練

150人分のカード



イベントカード  
(要望など)

人物カード  
(年齢・状況)

誰をどこに  
配置するか?

11

○グループ活動の様子



12

## 避難所運営訓練

**旅行者は別室に**

より多くの情報を  
伝える必要有

**同じ地区でまとめる**

顔見知り、安心感ある

**体調不良は別室に**

感染予防対策

**高齢者は入口に**

移動しやすいように

**体育館奥に**

家が全壊、  
避難生活が長期化



誰をどこに配置するか？

13



振り返り（全体で共有）



気づいた点を発表  
（他のグループからの学び）

14

## 避難訓練（避難所開設訓練）



学年・学級毎に役割分担し避難所を設置

15

## 避難所開設訓練



ちゃんと使えるかな？



16

## 避難所開設訓練

迎えに来たよ。  
無事でよかった～！



安心感を！

- ① 受付案内
- ② 救護との連携
- ③ 保護者への引渡し

17



避難者の受付



地域の方と一緒に地区ごとに待機

18

## 避難所開設訓練

気づいたこと  
たくさん！

- ① 受付場所が狭い
- ② 避難者の動線が混乱
  - ① トイレの設置場所・個数不足
  - ② 救護場所・受付・ゴミ箱の場所の配置が悪い
- ③ 救護物資が足りない
- ④ 車や駐車場の案内がない



19

## ふるさと会議にて発表



防災についてこれまでに  
学んだことを発表



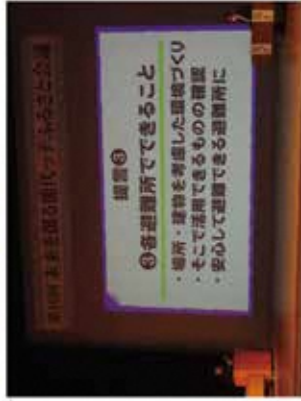
選ばれた代表者が発表している様子

20

～安心して暮らせる能代に～



7月の大雨災害



能代市への提言

## 提言①

### ①安否確認のネットワーク

- ・ 高齢者の避難補助
- ・ 住宅地図の活用
- ・ 助け合いの安心ネットワーク

## 提言②

### ②一緒に行う避難所開設訓練

- ・ 中学生と市職員と一緒に
- ・ 役割分担の確認
- ・ 安心感のある準備・運営

## 再提言

- ①備蓄庫の確認を一緒に
- ②避難カードの配布を
- ③アプリを使った情報発信

私たちの願い

安心して暮らせる能代市に！

11

住み続けられる  
まちづくりを



SDGs の目標の一つです！

25

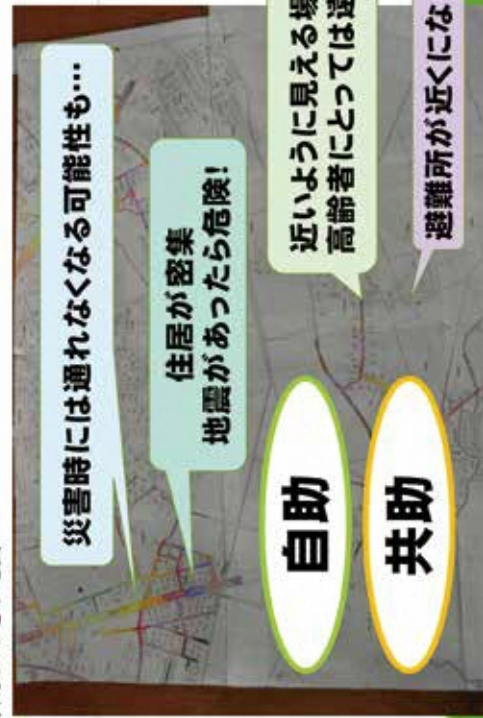
## 逃げ地図づくり



グループに分かれて逃げ地図づくりをしている様子

26

生徒が作成した逃げ地図



27

## 成果と課題

- 地域住民や関係機関との防災意識・課題の共有
- 従来行っていた訓練等の見直し
- 生徒の「防災」への関心や意識の高まり
- ▲継続的な避難訓練等の見直し
- ▲保護者や地域住民、関係機関との連携の強化

28

令和5年度文部科学省委託  
学校安全総合支援事業  
「地域連携安全・安心推進事業」実践事例集

---

令和6年2月発行 秋田県教育委員会

〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号  
電話 018-860-5204 FAX 018-860-5207



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます